

世の中がおかしくなりつつある兆候のように見える。

当時321歩兵聯隊の聯隊長であった後藤さんは敗戦時に軍の『軍旗奉焼』命令に反対して海外を含めて全陸軍の歩兵聯隊の中で一人だけ軍旗を焼かなかった聯隊長であった。その軍旗は今靖国神社の遊就館に展示されている。戦後復元されたものではない。昭和20年7月授与された当時のままのものである。軍旗は軍隊団結の象徴であり、士気振作の根源である。後藤さんは『解体する日本陸軍の形見として、この軍旗を秘匿して守り抜こう』と決心、覚悟を決めた。

ある古本の値段に思う

牧内節男(23/1・歩兵)

つい最近、古本の値段は誰が決めるのかという疑問を持った。私が毎日新聞出版局長の時、後藤四郎さん(陸士41期)の『陸軍へんこつ隊長物語』という本を出した(昭和54年12月20日発行)。値段は890円であった。その本が今や393円であった(送料・保険料消費税込)。アマゾンを通じてネット購入した。今や誰も見向きもしない本となったようである。発売当時ベスト・セラーになった。この本は貴重な本である。3、4千円はするのではないかと思った。安く手に入れて文句を言う筋合いではないのだが、

後藤さんはユニークな将校であった。この本にはそのエピソードが書かれている。人間の生き方は戦争中も平時も変わらないはずである。この人は『敬神・努力・浮気・楽天』をモットーとされ『いつもニコニコ笑って過ごそう』を信条とした。平成17年1月20日死去。享年97歳であった。昨年まで後藤さんを偲ぶ会が4月はじめに毎年開かれていた。戦後75年平和になった日本は国を守った人々のことを忘れてしまった。その人たちの生きてきた道は私達の人生にとっても学ぶべきことが多いはずである。いつの間にか日本人は利己主義となり欲を貪る人間になってしまった。その象徴として古本の値段に現れたと思うのは老人の戯言であらうか。